

7 個別の指導計画を書こう

Q1：個別の指導計画の実態把握や目標設定ではどのような点に留意すればいいですか？

児童生徒の実態を把握するためには、保護者、在籍学級担任、通級指導教室担当者と連携し、情報を共有して、指導計画を書きましょう。また、在籍学級と通級指導教室の指導について、役割を明確にする必要があります。子どもたちの得意なことやできることに目を向けながら目標を立てること、肯定的な目標設定が大切です。

通級指導教室担当者の作成例

<自閉症・情緒、LD・ADHD教室の例>

平成**年度 個別の指導計画							
通級開始日 H**年5月1日	個別指導 週1回 計2時間						
氏名： ○○ ○○ (男・女)	○○小学校3年○組						
1 児童の実態							
① 医療機関等							
診断名	名称						
ADHD	○○病院 (H**年 4月より)						
	○○ドクター						
② 学校							
入級主訴	指導終了時の目標						
<ul style="list-style-type: none"> 学級で落ち着いて座れず、授業を受けることが難しい。 感情のコントロールが苦手で、パニックを起こすことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉授業を落ち着いて受けられるようになり、困ったことを担任に伝えられる。 困った時の自己コントロール方法を理解している。 						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>在籍学級</th> <th>通級指導教室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 落ち着いている時は、友達と遊ぶことができる。 友達に手を出すことは、減った。 イライラした時、感情のコントロールが難しい。別室でクールダウンすると落ち着いて、話ができる。 うわばきを履かずに校内を歩く。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 落ち着いている時は、にこやかに話す。家族や友達に対して思いやりのある言葉を教師に伝える。 興味がある活動は、終了時刻を守ることが難しい。少しずつ意識ができるようになっていく。 社会の一般的なルールと自分のルールにずれが生じている。善悪は理解しているが、集団の場面になると、自分のルールになることがある。 相手の感情を学習する場面で、「わからない。」と答える。 </td> </tr> </tbody> </table>	在籍学級	通級指導教室	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いている時は、友達と遊ぶことができる。 友達に手を出すことは、減った。 イライラした時、感情のコントロールが難しい。別室でクールダウンすると落ち着いて、話ができる。 うわばきを履かずに校内を歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いている時は、にこやかに話す。家族や友達に対して思いやりのある言葉を教師に伝える。 興味がある活動は、終了時刻を守ることが難しい。少しずつ意識ができるようになっていく。 社会の一般的なルールと自分のルールにずれが生じている。善悪は理解しているが、集団の場面になると、自分のルールになることがある。 相手の感情を学習する場面で、「わからない。」と答える。 		
在籍学級	通級指導教室						
<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いている時は、友達と遊ぶことができる。 友達に手を出すことは、減った。 イライラした時、感情のコントロールが難しい。別室でクールダウンすると落ち着いて、話ができる。 うわばきを履かずに校内を歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いている時は、にこやかに話す。家族や友達に対して思いやりのある言葉を教師に伝える。 興味がある活動は、終了時刻を守ることが難しい。少しずつ意識ができるようになっていく。 社会の一般的なルールと自分のルールにずれが生じている。善悪は理解しているが、集団の場面になると、自分のルールになることがある。 相手の感情を学習する場面で、「わからない。」と答える。 						
対人・情緒・行動等	<p><実態> 在籍学級の担任の先生と連携をして、作成しましょう。</p>						
学習	<ul style="list-style-type: none"> 手先が器用で、図工に興味をもって取り組むことができる。 落ち着いて座ることが難しく、教室を出ることが多い。 漢字が苦手であり、書くことが難しい。 プリントに取り組んだり、取り組まなかったりする。間違いを指摘されるのを拒む。 						
スマイル	<table border="1"> <thead> <tr> <th>作成済</th> <th>作成中</th> <th>作成予定なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">作成済</td> <td style="text-align: center;">作成中</td> <td style="text-align: center;">作成予定なし</td> </tr> </tbody> </table>	作成済	作成中	作成予定なし	作成済	作成中	作成予定なし
作成済	作成中	作成予定なし					
作成済	作成中	作成予定なし					

2 願い

本人	・友達と仲良くしたい。
保護者	・友達と良好な関係を築いてほしい。 ・毎日、楽しく登校してほしい。

<願い>
本人と保護者の願いを聞きましょう。
どのような姿を目標にしているのか、
参考にしましょう。

3 長期目標

	在籍学級	通級指導教室
対人・行動・情緒	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時は、ヘルプカードを見ながら、援助を求める。 ・気持ちが落ち着かない時は、教師に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を最後まで聞く。 ・気持ちが落ち着かない時の対処方法を知る。
学習	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことがある時は、質問をする。 ・自分のペースで学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムタイマーを見て、終了時刻を意識する。

<目標>
・主語は、本人であり、肯定的な表現で目標を立てましょう。
・達成可能な目標を立てましょう。

4 今年度の目標と指導経過

	目 標	手立て	活 動 の 様 子
対人・情緒・行動等	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが落ち着かない時の対処方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニングでは、道徳教材、絵カード、写真などを活用し、状況に応じた援助方法を教師と一緒に確認をする。 ・深呼吸や数を数えるなどロールプレイを行う。 	<p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材教具の選択や工夫、学習環境の整備、支援の方法の中で、目標の達成につながることを書きましょう。 ・抽象的な表現や難しい言葉は避けて、具体的な表現に努めましょう。 ・合理的配慮を意識しましょう。 ・回数や時間など支援のレベルを具体的に明記しましょう。
学習	<ul style="list-style-type: none"> ・終了時刻を意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ、終了時刻を確認する。タイムタイマーを視覚的に提示し、時間を意識できるようにする。 ・タイムタイマーが鳴る1分前に予告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある活動を行う時は、終了時刻を確認しタイムタイマーをセットしました。1学期は、タイマーの音が鳴っても、聞こえていない様子でした。9月頃から少しずつ時間を意識することができるようになりました。ルールを明確にすることで、タイマーが鳴ると返事をしたり、終了を意識したりして、自分から片づけができるようになりました。

5 所見と今後の課題

・学習面では、予定されたすべての課題を真剣に取り組んでいました。週1回の通級指導教室を楽しみにしている様子で、在籍学級以外にも安心して過ごせる場所が見つかり、リラックスして学習に臨んでいました。自分の得意なこと、苦手なことについて、理解が少しずつ深まっています。振り返りの時間に、「ぼく、すぐイライラしちゃうんです。」と困り感を教員に伝えてくることがありました。不安定になる場面を予想し、落ち着いて学校生活を送れるように言葉かけや環境整理等を配慮していくことが必要です。

<評価>
・支援の手立てや目標を評価しましょう。
・どのような支援があれば達成できたのか、肯定的な表現をしましょう。

<所見>
一年間の指導を行って、次年度に引き継ぎたいことを書きましょう。

<きこえの教室の例>

きこえの教室 前期 個別の指導計画

記入日 平成**年6月

記入者 ○○ ○○○

児童名	障がい名		所 属		入級年月日
	聴覚障がい		△△小学校 2年□組		平成 年 月 日
主 訴	<p>○「困った時は自分から、周囲の人に言えるようになってほしい。」</p> <p>○「正しい発音で話せるようになってほしい。」</p> <p>○「お友達に補聴器のことを聞かれたら自分で話せる」</p> <p><本人：H**、4月></p> <p>○「(周りの情報が聞こえなくて) 何をしたら良いのかわからない。」</p> <p><母親：H**、4月></p> <p>○「(学校のことなど) 聞いても大丈夫というが、困った時は周りの人に言えるようになってほしい。」</p>				
児童の実態	<p>[平均聴力] 右60dB 左65dB 感音性難聴、補聴器装用、FM補聴システム使用</p> <p><聴覚管理> 補聴器を家庭で保護者と一緒に掃除する習慣が身に付いている。</p> <p><聴覚的弁別力> 聴き分けでは、単音でシとチが聞き分けられない。</p> <p><発音・発語> 発音では、サ行音、ザ行音が聞き分けられない。イントネーションで話せる。</p> <p><障がい認識> 学習中に聴こえづらいこと、発音の練習を嫌がるなどになっている。</p> <p><ことば> 知的には年齢相応であるが、発音やイントネーションが聞き取れない。</p> <p><学習意欲> 学ぶことに対して意欲的であるが、発音やイントネーションが聞き取れないため、取り組むことができない。</p> <p><コミュニケーション> 友達と遊ぶことは好きである。言葉(会話)よりも体を動かすコミュニケーションを好む。</p>				
長期目標	<p>(1) 年齢に相応したコミュニケーションやマナールールを身に付ける。</p> <p>(2) 年齢相応の語彙力を身に付け、会話に親しむ。</p> <p>(3) 正しい発音を身に付け、日常生活でも使うことができる。</p> <p>(4) 自身の障がいを理解し、自分のきこえにくさと周囲に伝え補聴器が利用できる。</p>				
前期(短期)目標	手立て	結果・評価			
①きこえの教室に関わる人たちに正しい言葉遣いなど、工夫して自分から言葉をかけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級集会などで、司会などの役割を設定し、本児が中心となって、周りの大人や他の通級児と交流できる場面の中で役割に取り組む。 ・グループ活動を計画し、学校生活の出来事や家庭での出来事などを話し合う。 ・グループで話し合いをする際、順番に意見を伝える場面を必ず設ける。また、他の児童の発言に対しても意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級集会などで、下級生にわかりやすい言葉を用いて、全体にわかりやすく伝えることができた。口元をよく見せることや、ゆっくりはっきりと話すなど、相手にとって伝わりやすい話し方を意識することができた。 			
②年齢相応(7歳レベル)の語彙力を身に付け、生活に使う言葉を理解して会話の中で使うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の構文力を高めるために、学習の時に必ず、絵カードや言葉の短冊等を使った言葉遊びを活動に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードや言葉の短冊などを用いて、文章を作る学習をした。自分が調べて覚えた言葉なども、文中に引用するようになってきた。 			

保護者や本人のことばを、解釈したり要約したりせずにそのまま記入します。

聴覚障がいの様子
ことばの様子
学習への取り組み・姿勢
コミュニケーションの様子
を記入します。

児童の通級終了までの目標を立てた後に、1年間の長期目標を立てます。

各学期に短期目標・それに合わせた手立てを記入します。

前期・後期の終わりに、短期目標に対しての結果(児童の様子)や評価を書きます。

<p>ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本児が日常の中でもさまざまな言葉を使って表現できるように、日常生活に沿った言葉や文章を題材にし、学習に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文リレーなどでは、日常で使う言葉や、新しく覚えた言葉などを引用して文章を作ることができた。時折、助詞の使い方に迷っており、担当者の助言で訂正し、正しい構文を考えることができた。
<p>③単語や文中で舌の動きを意識しながら、正しく発音できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい発音ができるように、舌の位置や動かし方を確認する。 ・「シ」「チ」、サ行音、ザ行音の入った言葉や文章を使って、正しい舌の位置で発音しているか練習する。 ・自分の発音をフィードバックできるように、FMマイクを使用して自分の言葉を聴かせながら、発音練習や単語や音読の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読ではFMマイクを使用し、正しく「シ」「チ」を発音することができた。しかし、会話に夢中になると、「シ」音が「ヒ」音に近い音で発音することが多くあった。担当者の言葉かけによって、正しく言い直すことができた。 ・会話の中で、自分の発音が正しいかFMマイクを使用し確認するようになってきている。
<p>④自身のきこえについて認識を深め、困ったときの解決方法や工夫を考え周囲の人たちに伝えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の耳のきこえについて、認識が深められるように、家庭や学校での様子を聞き、課題にあった教材を用意する。 ・グループ活動を設定し、自身の思いを共感してもらうことや自分と同じ境遇の友達の思いを知る機会を作る。 ・困っている場面を具体的に話し合わせ、どんな方法で解決をするか意見を出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身のきこえのことや学級での様子を聞くと「クラスみんなが聴こえないことを知ってるから大丈夫。」と話すことがあった。 ・グループ学習では、聴こえなくて困った時に「友達にきいてる。みんな知っているから。」と他の児童に伝えた。「聴こえなかったら、先生や友達に伝えた方がいい。」など、自分の考えを話し合いの中で伝えることがで
<p>所属学級との連携</p>	<p>連絡会（6月）を活用し、在籍学級の様子やきこえの学級での様子や課題点を伝え合った。後期も「連絡ノート」を通じて本児の日常の学級での様子やきこえの学級での学習の様子を伝え合った。担任の先生とは日常から連携し、それぞれの立場で、保護者や本児が安心して過ごせるような環境づくりに取り組んだ。</p>	
<p>家庭との連携</p>	<p>本児の学校や家庭での様子を聞き、困っていることや保護者の思いなどを面談や通級時に話し合い、共通理解を促し、正しい発音での音読、読書の拡充ための取り組みを保護者との連携のもと実践した。</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>①のコミュニケーションをとれるようになってきている。学級集会などでは、他の児童の様子を見ながら準備を手伝ったり、下級生に声を掛けて面倒を見たりする姿が見られるようになってきた。</p> <p>②の構文力に関しては、日記や作文リレーなど、文章を書くことにはとても意欲的である。しかし文中に句読点をつけ忘れたり、助詞を書き間違えた場面もある。今後も継続的に文章を書く学習の中で、正しい構文力を身に付けていく。</p> <p>③の発音に関しては、会話の中で正しく発音できるようになってきた。</p> <p>④の障がい認識については、聴覚障がいの児童と共有することができた。聴覚障がいに対する不安や悩みを共有し、共通理解を促すことができた。聴覚障がいに対する不安や悩みを共有し、共通理解を促すことができた。</p>	

在籍学級の担任の先生と連絡会などで話し合い、連携している様子を記入します。

保護者と連携している内容を書きます。面談や通級の際に話し合った内容なども、場合によっては書きます。

在籍学級・家庭と共通理解できるように児童の様子や成果と課題を書きます。また、今後の手立ても記入します。

<ことばの教室の例>

各校ごとに若干の違いはあります。A4用紙の表裏に収めます。

平成〇〇年度前期△△小ことばの教室 個別の指導計画 兼 報告書					
【児童の実態】		記載者 〇〇 〇〇 平成**年5月作成			
児童名	いちかわ たろう 市川 太郎	性別	男	学年	小学校 4年
		生年月日	H**.*.**	入級年月日	H**.*.**
主訴	(H**.4)・吃音がある。(母) (H**.4)・発音が不明瞭で聞き取りにくい。話をすると...				
入級に至るまでの経緯	・話し始めて半年から一年ぐらいたったところに、いつの間にか(症状)。 ・小...の教室に通級している元...に、ことばの教室から発音の誤りを指摘され、発音の練習をするよう...から正式入級することを勧められ、小2の年度末に申し込んだ。				
これまでの学習	[2年生時]・/キ//ケ/の発音練習 [3年生時]・/キ//ケ//ギ//ゲ/の発音				
ことばの様子	《吃音の状態》 ・話し始めだけでなく、文節の切れ目で連発(音の繰り返し)や伸発(音を伸ばす)、難発(音が出にくい)が起きる。 ・...があり、あまり目立たない時期と、かなり頻発する時期がある。 《会話の様子》 ・早口で話すため、会話の明瞭度がやや低い。 《読み書きの様子》 ・既習の漢字を使おうとせず、何でもひらがな表記してしまう。また句読点の区別がついていなかったり促音や拗音を書き誤ったりすることもある。 ・「わ/は」「お/を」の書き誤りがある。 ・文末をちがえて...				
見立て	《ことばの課題》 ①吃音がある。 ②発音の誤りがある。 ③読み誤り、書き誤りが多い。				
	【本児の吃意識】 ・家庭では言いにくいと感じ、「お...」学校では、挙手して発言するが、話す前に深呼吸をし...を付けて話すよ... ・声が出てきにくく、深呼吸して「苦しい感じ?」と答える。				
	【吃音に対する周囲の対応】 ・周囲の子らは何も言わない。(小3担任) ・は普通なことなので、特に困った...かいて周囲から指摘を受けたりから本人からの訴えはない。(母)				
	《その他で気になること》 ・自分の意思を表明できず、周囲に流されてしまう。				

	<p>《指導方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聴覚的フィードバックを意識させた発音練習をする。 ○本児の吃意識に注意を払い、吃音について積極的に話し合える。 ○ことばのやりとりやことば遊びなどを通して、語彙力を高める。 ○いろいろな場面で本児が選択したり決定したりすることを奨励し、結果を尊重する。 	<p>対象の児童との学習活動では何を大切にするのか、留意すべき点は何か、などの方針を立てます。</p>
年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ○吃音についての知識を学び、自己の吃音の特徴について話し合ったり考えたりできる。 ○発音の明瞭度をあげる。(/キ//ケ//ギ//ゲ/を) ○特殊音節を正確に書きとれる。 	<p>その年度中に達成したい目標(長期目標)</p>

【前期の指導について】 個別学習 週1回

結果を記入した時期 平成**年9月記入

ねらい	手立て	様子
<p>/キ//ケ//ギ//ゲ/が、単語練習で正しく発音できる。</p>	<p>音の発音できるように促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・/キ//ケ//ギ//ゲ/の発音は会話の中でほとんど気にならない程度になった。誤った発音をしたときに復唱すると気づいて言い直しをすることができていた。 ・ことばの中のキャ行・ギャ行はチャ行・ジャ行との区別が付きにくい様だった。初めて聞く言葉だけでなく、知っていることばでも書き取りの際に迷う様子が見られた。特にギユウとジュウは発音も曖昧になっている。
<p>ことばの中の促音の位置を聞き分ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熟読活動でも促音の位置を聞き分けるように促す。 ・「聞き取りシート」を用い、聴いて作業する力を付ける。 	<p>ことばの書き取りでは促音(小さいっ)の書き落としが目立。特に拗音の後の「っ」(拗促音)を書き落とすことが多。ことばを聞いていきなり字を書くのではなく、音を●のチップを並べて読み取るように促す。誤りやすいことばが見られた。</p> <p>学習時の様子や学習の進捗状況を記入します。保護者や担任への報告書も兼ねているので、担当者だけが分かるような専門用語の使用は控えましょう。</p>
<p>自分の吃音を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話しにくさに関する話題が出たときには、正しい吃音の知識や情報を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い文章の音読を毎日めなかつたり文末をゆっくり読むように促す。 ・音読の際、漢字を読むときに発音が難しくなったりすることがあった。昨年度のように苦しめることはあまりなかった。
<p>在籍学級での様子</p> <p>連絡会(6月)担任より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日直のスピーチやちょっとしたイベント前にとっても緊張している様子がある。 ・表情は明るく、学校での生活面(係活動、友達関係)も問題なく過ごしている。 	<p>自分の意見を話す時に吃症状が出やすい。ながらも自分からよく話している。挙手しづらい様子が見られる。</p> <p>保護者が話したことを書きます。心配事の経過や担任に確かめたりしたことも付記しておくといいでしょう。合理的配慮の要望があった時には、担任と合意形成した内容を書いておきます。</p>
<p>家庭での様子</p> <p>連絡会にて保護者より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを文表現するのが難しい。またりがある、句読点を打たない、等の様子がある。 ・文末をちがえて読んでしまう。読みとばしや読み飛ばしがある。 ・学校のことで、困ったことは訴えてこない。うちに対しては丸く収めるタイプだと思う。 	<p>保護者が話したことを書きます。心配事の経過や担任に確かめたりしたことも付記しておくといいでしょう。合理的配慮の要望があった時には、担任と合意形成した内容を書いておきます。</p>

【成果と課題】

吃症状は年度末の頃よりも落ち着いてきた。が、途中で「あれ…」「あの…」ということばを挿入する様子があり、様子を説明するのに適当な言葉がすぐに思い出さず、急かさずに聞くようにしている。復唱したりしない様子が見られる。

文字の読み書きが苦手な様子がある。音がないことも影響していると思います。この課題が少しでも軽減できるように指導したいと思います。

年間目標達成に至るまでの前期の学習で得られた成果と、まだ課題として残っていることを書きます。思うような成果が得られなかったときには、その理由を考える必要があります。課題を明らかにし、この後の学習に繋がります。

8 在籍校の学級担任との連携

児童生徒は学校生活の大半を在籍学級で過ごしているので、情報交換は不可欠です。どのような課題があるのか、その課題にそれぞれの場でどのように対応していくのかを一緒に考えていきます。個別の指導場面で見せる姿と集団生活での姿の両方を知ること、子どもの理解がより深まり、効果的な指導に繋がります。担任と通級指導教室担当者の双方で子どもを見守り、育てていくのです。

- ◇日常の情報共有 ・ ・ ・ 電話やメールをつかって 連絡帳のやり取りで
- ◇お互いの学習場面の様子を知る ・ ・ ・ 学級だよりの交換 **連絡会の開催（年3回）**

第1回 連絡会 <4月 担任と担当者との顔合わせ>

- 【協議】・通級指導教室の説明（学習・教材等）。※通級児童生徒を初めて受け持つ担任もいます。
- ・通級時間の確認と通級への協力をお願い。
 - ・年度初めの在籍学級での様子。
 - ・通常学級での配慮や手立てについて情報提供。

配布資料例

- ・教室紹介・学級での配慮について
- ・「吃音の子がクラスにいたら」
- ・「スピーチバナナ」（聴力図）

第2回 連絡会 <夏ごろ 個別の指導計画の内容の確認>

- 【協議】・「個別の指導計画」について。
- ・学級での様子。
 - ・合理的配慮について。※担任からの要望があれば、市川スマイルプラン（個別の教育支援計画）の作成や確認作業のお手伝いをすることもあります。

きこえ・ことばの教室

- ・通級指導教室での個別学習の様子を、学級担任が同席して参観します。（VTR 視聴やマジックミラー越しの参観の場合もあり）
- ・授業参観の後に、協議の時間を持ちます。
- ・先に在籍学級の様子を参観する場合があります。

自情等、LD/ADHD通級指導教室

- ・6～9月頃（夏季休業中も含む）に、通級指導教室にて、学級担任と担当者が協議します。

*保護者も同席して三者で協議することもあります。

第3回 連絡会 <秋ごろ 担当者が在籍学級での学習の様子を参観・協議>

- 【参観】・挙手や発言（発音、吃症状）、話の聞き方、一斉指示の理解及び反応、座っている時の姿勢等、学習への取り組みの様子。
- ・学活や学習準備、掃除等の活動。休み時間の過ごし方（学級の中の存在感、交友関係）。
 - ・ロッカーや引出し等の持ち物の整理。図工美術・習字の作品や個人ファイルの文章等。
 - ・給食の食べ方（咀嚼の様子、偏食、友達との交流の様子）。
- 【協議】・前回の連絡会や普段のやり取りで話題になっていたことのその後を確認する。
- ・集団での学習の様子から、個別の指導の成果が表れていることや課題として残っていることなどを話し合う。
 - ・担任のニーズの確認と、在籍学級での対応に必要な情報を提供する。

＜参考資料＞ 実態把握のために

児童生徒の現在の状況から、教育的ニーズの有無やその傾向を把握するための質問紙法を3点紹介します。児童生徒の日常の言動をよく知っている学級担任、通級指導教室担当者、特別支援教育コーディネーター等の関係教職員が記入し活用してください。なお、これらは指導や支援に役立つためのものであり、診断名をつけるために用いるものではありません。

(1) LD児等の行動兆候チェックリスト (小学生用・中学生用)

千葉県総合教育センターHP よりダウンロード

<https://www.ice.or.jp/nc/kenkyu/houkoku/tokushi/>

子どもの行動をチェックすることで、特別な教育的ニーズを持つ子どもの傾向を知ることができるように作成されています。14領域の5つのチェック項目について「まったくできない」から「かなりよくできる」を1～5点で評価します。自動計算ファイルに入力することで、領域ごとに合計点、平均点が算出され、最終画面にレーダーチャートとして表されます。



(2) 指導のためのソーシャルスキル尺度 (小学生用・中学生用)

「ソーシャルスキルマニュアル」上野一彦/岡田智 編著 明治図書

社会性に困難をもつ児童生徒を指導する際に、子どもの目標となるスキルを特定化するための尺度です。

小学生用尺度には「集団行動」「セルフコントロールスキル」「仲間関係スキル」「コミュニケーションスキル」の4つ、中学生用尺度には「集団行動」「仲間関係スキル」「コミュニケーションスキル」の3つの評定を行います。



(3) 行動と学習に関する基礎調査票と評価シート (小学生～中学生を対象)

「新版発達障害に気づいて・育てる完全ガイド」黒澤礼子 著 講談社

子どもそれぞれの行動や学習の状況を把握し、学校生活をサポートするための調査票です。

調査票の設問は、4つの分野の16項目です。5段階で回答し、項目ごとに平均点を算出し、評価シートに記入します。評価シートと基礎調査票の各項目を見比べて全体を読み取り、対応策を立てる際の参考にします。



※ 上記による実態把握は、通級による指導開始時だけでなく、適宜実施することにより、指導の成果を確かめ、目標の見直しや指導法の改善に役立てることができます。

9 保護者との連携

子どもの成長・発達の基礎は家族との日々の生活の積み重ねで培われたものです。どのような毎日を過ごしてきたのか（過ごしているのか）を知ることは、指導方針を立てる上でも重要な手掛かりとなります。また、保護者の悩みを聞いたり、解決策を考えたりするとともに、子どもの願いや気持ちを大事にして成長を促し見守ることが、保護者との連携で必要なことです。

話を聞く機会は・・・

○初回面談…初めてお子さんのことを詳しく聞く面談。担当者が替わった時にも行われます。

主訴 生育歴 言語歴 家族歴 養育歴 相談歴 家での様子等を丁寧にきいていきます。

○定期的な面談

- ・家庭や学校での最近の様子について情報を共有する。
- ・「個別の指導計画」の内容の確認や評価について報告する。
- ・連絡会（在籍学級参観）の様子や担任との協議の内容を報告する。
- ・学習の経過や成果についての説明や指導終了に向けての相談をする。

医療機関からの報告書や補聴器の情報等、保護者から教えてもらうことは、たくさんあります。

○通級の時に行われる短いやりとり

- ・大事な情報交換の機会です。保護者に「先生は忙しそうだから話しかけてはいけないな。」と気遣わせないようにしましょう。

○保護者からの訴えに応じた面談

- ・面談後にも「その後どうですか?」ということばかけを忘れずにしましょう。

相談に来る保護者の気持ちを受け止め、ニーズを把握しましょう。

相談に来る保護者は、わが子の何が気になっているのでしょうか。相談に至る経緯を聞き、心配していることをはっきりさせます。（主訴の確認）

中には「自分の育て方のせいでこうなったのでは」と悩んでいる方も多くいます。子どものことで悩み考えた末に、通級指導教室にたどり着いた保護者の気持ちを大事にして対応していきたいものです。家族がその子をありのままに受け入れられるように、特性を理解するためのガイダンスが必要な時もあります。また、子どもの実態とかけ離れた親の願望を押し付けて子どもを苦しめてしまわないよう、専門家である担当者的見立てをきちんと説明することも大切です。

通級指導教室の個別の学習で出来ることを説明します…個別の指導計画の活用

通級による限られた指導時間の中で「何ができるのか」、個別の指導計画を活用して「どのような方針を立て、何を目標にしているのか」を説明します。学習の経過や成果などについても逐次説明しましょう。

家庭で協力してもらうことはなんでしょう

…養育環境・言語環境を整える

様々な環境を整えるために、協力は不可欠です。しかし「これまでの子育てを否定された」と感じさせないように気を付けましょう。子どもの自立に向けて、これなら家庭でもできそうだということが、有効だと思われることを一緒に考えましょう。一般的な情報はいろいろな手段で入手できますが、「その子」のことは、その子を知る当事者しか分かりません。たくさんある一般的・専門的な情報の中から、その子に確実に当てはまる具体的な支援の情報を伝えることが大切です。

目指すのは「子どもの自立を支援すること」

いつまでも親が子どもを支え続けられる訳ではないので、他人とのかかわりや集団生活の中で、親の力を借りずに生きていく力を育てることが大切です。担当者は教員だからこそ、集団生活の難しさや、学習上の困難等、個々の子どもの学校でおかれている今の状況を保護者に説明することができるでしょう。その子の自立のために何ができるのか、保護者と一緒に考え支えていくことが連携の目指すところですよ。

対話の三本柱

まずは**信頼関係**が大事です。そのうえで**十分な対話**を心がけましょう。

◆よく聞くこと。

相手の気持ちがあるがままに聞き入れ、相手を分かろうとして心から聴きます。

「そうですね」「なるほど」などと相槌を打ちながら聞きましょう。

尋問や詰問にならないように注意して相手の言いたいことを引き出す手伝いをしましょう。

◆共感を示すこと。

評価的、批判的、断定的なことばを控えましょう。

×「お母さん大丈夫、考え過ぎですよ。」 ×「よくあること。誰だってそうよ。」

○「そうですか、～が気になるんですね。」 ○「それは大変でしたね。」

◆励まし 支えること。

疑問や不安を受け止め、役立つことを一緒に考えましょう。解決に至らなくても親身になって話を聞き一緒に悩んでくれる人がいることで、相手は心強く感じられるものです。

コラム 1

Q：音声教材とは？

A：発達障がい等により、通常の検定教科書で使用されている文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教材です。パソコンやタブレット等の機器を活用して学習します。文部科学省から委託を受けたボランティア団体等が製作し、必要な児童生徒に提供しており、無償の物もあります。

例) 日本障害者リハビリテーション協会「マルチメディアデージー教科書」

東京大学先端科学技術研究センター「AccessReading」

NPO 法人エッジ「音声教材 BEAM」

NPO 法人テストと学習環境のユニバーサルデザイン研究機構

「ペンでタッチすると読める音声付教科書」